

# 図書館だより



no.236



2022(令和4)年7月21日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



## 福島県立図書館 再開館しました

地震被害からの復旧工事のため休館しておりましたが、  
7月8日(金曜日)から開館しました。  
休館中は皆さまにはご不便をおかけしました。

## 福島を生きる講座を開催します！

福島の文化や歴史を知るための「福島を生きる講座」を開催します。

テーマを変えながら複数回行いますので、是非ご参加ください！(講座ごとにそれぞれ申込みが必要です)

### 福島の空襲を米軍資料から探る

— 国立国会図書館デジタルコレクションから —

講師 紺野 滋氏

(ジャーナリスト・元地方紙論説委員)

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続き、世界情勢の緊張が高まる中で世界各地で平和への祈りが広がっています。今回は『英米軍記録が語る福島空襲』(歴史春秋社/2016.8)の著者・紺野滋氏をお招きし、前半は模擬原爆投下も含めた福島空襲の概略についての説明、後半は国立国会図書館デジタルコレクションで公開している福島空襲に関する「米軍資料」を受講者全員で読み解くワークショップとし、福島の戦争の歴史と平和を考える機会といたします。



「郡山空襲報告書」— 国立国会図書館デジタルコレクションから

日時 | 令和4年8月6日(土) 14:00~15:30  
場所 | 福島県立図書館 第一研修室  
定員 | 先着20名

### 申込

- いずれかの方法でお申込みください。
- 福島県立図書館へ電話 (024-535-3220)
  - 直接来館 (総合案内カウンター)
  - 福島県立図書館Webサイトフォーム

### その他

- 入館の際は「アルコール消毒液」で手指消毒を行って下さい。
- 参加者の体調によっては、参加をお断りする場合があります。
- 新型コロナウイルス感染症の状況により実施できない場合があります。

## もっと知りたい！

### 福島の鉄道

日時 令和4年8月21日(日)  
14時~15時30分

講師 鉄道博物館  
学芸員 香月良太氏

場所 福島県立図書館 講堂

内容 東北新幹線や県内のローカル線についての歴史を楽しく解説します。



【お問合せ先】 福島県立図書館 (電話 024-535-3220)

# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・自然・社会

『人生を豊かにする歴史・時代小説教室』 安部 龍太郎／著、門井 慶喜／著、畠中 恵／著 東京 文藝春秋 2022.4 901.307/71 224

雑誌「オール讀物」の小説書き方講座を新書化したものです。編集長によるインタビュー形式で気軽に読むことができます。人気作家3名の、現代小説とは違った苦労がある歴史・時代小説をどのように書いていくのか、三者三様の仕事の仕方(図書館の使い方も!)が興味深いです。作家として筆一本で食っていくという強烈なプロ意識が共通しているのも印象的です。

デビュー前後の具体的なエピソードや仕事のアプローチ方法など、ビジネス本としてもおすすめしたい1冊です。

『印鑑の基礎知識 知らないではすまされない』改訂版 寺澤 正孝／監修、金融実務研究会／著 きんざい 2022.3 324.14/7マ 223

本書では、印鑑や署名に関する法律的な知識をQ&A形式で解説しています。

自宅等でのリモートワークや、対面せずに荷物を受け取る「置き配」が一般的となり、仕事や日常生活でハンコを押す機会が減ったと感じている方もいるのではないのでしょうか。しかし、ハンコを押す機会がゼロになったわけではありません。安易な押印でトラブルに巻き込まれる前に、知っておきたい「ハンコ」の知識が詰まった1冊です。

『さばの缶づめ、宇宙へいく 鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち』 小坂 康之／著、林 公代／著 イースト・プレス 2022.1 667.9/コヤ 221

江戸時代、若狭(現在の福井県)で採れたサバを京都へ運ぶ道は鯖街道と呼ばれました。

本書はその福井にある水産高校の生徒たちが開発したサバの缶詰が、JAXAの宇宙日本食として認証されるまでの14年間の物語です。合言葉は「鯖街道を国際宇宙ステーションへ!」。予算不足、様々な開発上の課題、学校統廃合によるプロジェクト消滅の危機などの数々の困難を、創意工夫と折れない気持ちで乗り越えようとする生徒たちの奮闘ぶり、教師と地域の人々がそれを支える様子に胸が熱くなります。

## 児童・児童図書研究

『昔話の扉を開こう』小澤俊夫／[著] 暮しの手帖社 2022.1 J388/オ

幼いころに聞いた昔話を思い出す時、人は内容だけではなく語り手のことも一緒に思い出す、と著者は言います。これはお話を語るということの根底に家族への愛情があるためです。

昔話は「聞く」ためのお話です。心地よいリズムや繰り返しは先人たちが声に出して「語る」ことによって形成されてきました。そして長年の積み重ねによっ

て子どもたちを楽しませ、安心させる確かなものになっています。

みなさんも自分の声で子供たちに昔話を語ってみてはいかがでしょうか?

## 雑誌・新聞

今年度から当館で新しく購入している雑誌をご紹介します。是非ご利用ください。

『Hiragana times』(ひらがなタイムズ) Z/302.1/H1 月刊 2022年5月号(通巻427号)より購入  
『労働の科学』 Z/366.9/R5 月刊 2022年3月号(77巻5号)より購入  
『消費と生活』 Z/590.5/S3 隔月刊 2022年5・6月号(通巻365号)より購入

暑い日々が続いています。体の疲れを癒すおすすめ雑誌をご紹介します。

『からだにいいこと』 Z/498.3/K1/ 2022.8(第18巻第4号, 通巻第198号) 特集「コリと痛みを効く「眠りの極意」」  
『NHKきょうの健康』 Z/498.3/N1/ 2022年7月号(通巻412号) 特集「睡眠で健康長寿」  
『プレジデント』 Z/335/P3/ 2022.7.29号(第60巻第14号, 通巻1101号) 特集「脳疲労ゼロ革命」

## 地域

『我が山河 福島への憧憬』 小泉 武夫／著、酒井昌之／挿画 福島民報社 2021.10 L291.09/K28/1

小野町出身の発酵学博士である小泉武夫氏が、福島県内の39市町村を訪ねた思い出を綴ります。土地の歴史とその背景にある伝統行事、自然、ご当地食に俳句…と盛りだくさんの福島の魅力が詰まっています。特にご当地食についてはグルメ本かと思うほど、食欲をそそられます。北塩原村では釣りにて揚げたてのワカサギを食べ、「ワカサギはサクリンコ、酒はコピリンコ」と箸が止まらなかった様子。読むと舌に残る郷土の美味しい記憶が思い出されるのでは? 各所の美しい風景画も見どころです。

『福島鉄道物語』 齋 正機／[著], 福島民報社／編 福島民報社 2022.4 L914.6/S33/1

本書には、福島市出身の日本画家である齋正機氏が描いた様々な鉄道の風景とエッセイが収録されています。作品には、福島交通飯坂線、阿武隈急行、只見線、常磐線、東北新幹線…など、私たちの身近な路線が登場し、それぞれにまつわる齋氏の思い出のエピソードが優しく温かな視点で語られています。

本書を読んでいると、自分でも忘れてしまっていた鉄道での思い出や、ふるさとに関する懐かしい記憶がふとよみがえってくるかもしれません。